

熊本県立松橋西支援学校(高等部上益城分教室) 令和4年度(2022年度)学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>心豊かでたくましい児童生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 心豊かであるということ <ul style="list-style-type: none"> ・ 優しく思いやりがあり、自然や周囲の人を大切にすることができる。 ・ 自分の好きなことを見つけ、感性豊かに感じ取ったり表現したりできる。 ・ 友達や教師と積極的にかかわり、気持ちを重ね合わせながら活動できる。 ○ たくましいということ <ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら健康に気をつけ、体力を高めながら元気に毎日を過ごすことができる。 ・ 困難さを感じても、自己肯定感を元に挑戦する意欲を持つことができる。 ・ 自らの生活に目標を持って、積極果敢に取り組むことができる。

<p>2 本年度の重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ より良い授業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 育てたい資質・能力を踏まえた年間計画の作成(教務部) ・ 運動の日常化による体力の向上及び生活習慣の向上(保健体育部) ・ 児童生徒会活動の充実と、地域社会との交流の推進(生徒指導部) ・ 児童生徒の社会的・職業的自立を目指すキャリア教育の推進(進路指導部) ○ より良い教師 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業評価シートを活用した評価検討会及び観点別学習状況の評価における専門性の向上(研究部) ・ ICT教育の実践及びプログラミング学習の取組に向けた基礎研修の実施(情報教育部) ○ より良い学校 <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内外の行事・諸活動を全体的に見渡した、円滑な業務の遂行(総務部) ・ 環境保全活動の推進及び防災意識の高揚と防災対応能力の向上(環境安全部) ・ 人権教育の視点で、よりよい教育的支援を行うための校内支援体制の検討(教育支援部)

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	時間外勤務時間の削減を目指した業務改善の実施	・ 時間外勤務削減を目標とした計画的な業務の遂行	・ 年間360時間超過者の割合を前年比15%削減する。	・ 業務負担の実態を把握し簡素化と精選を行う。 ・ 毎月の衛生委員会時に職員の勤務実態を把握し該当する職員には積極的な声かけと面談を実施する。	B	・ 生徒指導の対応で多忙な月は時間外勤務時間数が多くなる職員が見られたが、それ以外の月は、概ね時間外勤務削減を意識して業務を遂行することができた。引き続き業務改善の工夫を図りたい。
	授業の充実	育てたい資質能力を踏まえた年間指導計画の作成	・ 各教科等の年間学習計画への反映	・ 年間指導計画を随時(約1ヶ月毎)確認していく。		B
	運動の日常化による体力の向上及び生活習慣の向上	・ 生徒が自ら取り組める種目の設定 ・ 生徒の肥満防止や生活習慣の向上に関する取組の検討	・ 体づくり運動を中心にサーキット種目やニュースポーツを取り入れる。 ・ 生徒の肥満度や生活習慣の実態について把握する。	・ 生徒が取り組みやすい内容や、自己評価表等を準備する。 ・ 職員、保護者を対象とした講師招へい研修会(健康に関する講演会)を実施する。	A	

	授業評価シートを活用した評価検討会及び観点別学習状況の評価における専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・単元及び題材のまとめりごとの評価規準を設定した授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、数学の評価規準一覧を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価検討会を実施し、評価規準の設定や評価の在り方についての検討を行う。 ・学習評価と授業評価を踏まえた授業改善のポイントを共有する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・評価検討会を実施したことにより、評価の仕方やそれに伴った授業内容を検討することができた。次年度は学部ごとに取り組む内容を検討する予定である。
	ICT教育の実践及びプログラミング学習の取組に向けた基礎研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した授業作りの推進 ・プログラミング学習の基礎研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員がICT機器を活用した授業作りができる環境をつくる。 ・全職員がプログラミング的思考に関する理解を深め、実践につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画シートにICT活用の項目を設け、授業研究会等で、その効果について検証する。 ・プログラミング学習についての研修を年2回実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業においてICTを多分に活用することができた。 ・プログラミング学習についての研修を受講し、授業への活用及び実践例の作成を行うことができた。 ・次年度は、ICT、プログラミング学習のさらなる活用事例増強に努めたい。
キャリア教育(進路指導)	生徒の社会的・職業的自立を目指すキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携した進路指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般就労につながる現場実習先を開拓する。 ・キャリア発達を促す進路学習の実践を系統的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導主事と連携し、生徒のニーズに応じた企業を中心に訪問を行う。 ・「職業」の授業を中心に将来を見据えた内容を職業家庭の両面から考える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導主事、事業所と密に連携することで、新たに新設される事業所の情報を共有することができ、職員、生徒にも情報提供することができた。また、新たに実習先を2カ所開拓できた。 ・担任の先生方の協力の下、スムーズに実習を行うことができた。 ・社会人としての基礎知識等を系統的かつ継続的に学習することができた。
生徒(生活)指導	生徒会活動の充実と、地域社会との交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の生徒会活動の確立 ・甲佐高校との交流及共同学習等の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に行事等の運営に関わる態度の育成を図る。 ・様々な交流を通して共に仲間としての意識や経験の拡大を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員による定期的な話し合いを実施し、集会等の内容を検討・決定する。 ・学年通信を通して保護者に活動の様子を伝える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスが流行していたこともあり定期的に集会などを開くことができなかった。そんな中でも甲佐高校と体育祭や青垣祭などで交流を深めることができた。次年度は、より生徒会活動を確立できるように計画を立てて実践したい。
人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修と人権学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修、人権学習を計画的に実施し、人権感覚を高める。 ・年間計画を立て、各学年で人権学習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権に関する職員研修を年5回行い、人権学習の充実につなげる。 ・甲佐町学校人権教育部会に継続して参加し、地域への理解と啓発に繋げる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習年間指導計画に基づき、人権学習を実施し、生徒の人権意識を高めることができた。 ・甲佐町学校人権教育部会にできるだけ参加したり、人権標語を出品したりした。次年度も甲佐町の取組にも協力していきたい。
いじめの防止等	いじめの未然防止・早期発見・対策等における取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止の取組の情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修を通して、いじめを早期に発見し、防止するための実践力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる生徒の様子を日常的に職員間で共通理解を図り、共通実践につなげる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる生徒へ様子を、朝会や学部会などで日常的に共通理解を図ることで、共通実践につなげることでできた。また、保護者への伝達も速やかに行

			・生徒に対する指導の内容や様子を具体的に保護者に伝える。	・いじめ防止に関する授業実践の様子を学年通信等で保護者に伝える。		うことができた。次年度は、より迅速に対応できるように、職員間での協力体制を整えて実践したい。
地域支援	地域における支援体制の充実	・巡回相談及び近隣の地域への対応	・巡回相談や来所相談、就学相談等に適切に対応する。	・依頼者と確実な連絡調整を行う。 ・巡回相談後の取組状況の確認と適切な継続支援を行う。	A	・次年度の高等部上益城分教室への入学を見据えた就学相談では、依頼者と日程調整を行い、適切に対応することができた。 ・教育相談後、詳細に記録をまとめることにも努めた。
	人権教育の視点で、よりよい教育的支援を行うための校内支援体制の検討	・生徒理解や教員間の連携を深めるためのケース会議の実施	・生徒の思いや背景に重点を置いたケース会議を実施する。	・月行事に位置づけて、運営する。 ・ケース会議の重点を周知するとともに、評価を基に今後の支援について確認を行う。	B	・分教室会での生徒の情報共有や臨時のケース会を実施しながら生徒理解を深め、支援の仕方を検討し、支援にあたることができた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	環境保全活動の推進及び防災意識の高揚と防災対応能力の向上	・教室や校舎周辺の環境美化活動の実施 ・甲佐高校、地域との連携による防災意識の向上と災害時対応の構築	・掃除の時間における継続的な指導や校舎周辺の環境美化活動を推進する。 ・甲佐高校、学校近隣地区の合同避難訓練を行い、協力の在り方を確認する。	・生徒、職員全員で清掃活動に取り組む。 ・防災マニュアルの共通理解を図り、避難経路等の手順書を作成する。 ・関係者と情報共有を図りながら、対応について意見交換する	B	・災害時の避難に関する共通理解や避難経路の作成、情報共有や意見交換はできた。 ・校舎周辺の清掃活動は、イベント前に行ったが、取組として少なかったように思う。

4 学校関係者評価

- 進路指導部が発行する通信には、保護者としてもしっかりと目を通してしている。以前実施されていた保護者の事業所訪問は難しい状況であるが、コロナの扱いが軽減したら、元のような事業所訪問を実施してほしい。
- 制約のある環境下で、成果や実績を積みあげるのは難しいと思う。学校独自で解決できる課題もあれば、外部の支援がなければ解決できない課題もあるので、学校運営協議会委員ともそのような事情を共有できれば、より建設的な意見や支援ができると思う。
- 教育目標や重点目標に対して、総括表ではきめ細かく具体的方策等が記入されており、わかりやすい評価表になっている。

5 総合評価

- 保護者アンケートでは、昨年度よりも「そう思う」の割合が大きく増えており、学校の取組が保護者の方々に良く伝わっていると感じた。その一方で、「わからない」の割合も気になる。
- 教職員アンケートにおいて、否定的な回答の割合が気になった。教職員の資質向上はどここの学校でも永遠の課題と言えるが、自らの組織や人材育成に厳しい視点を持っている教職員が存在する集団と捉えると、ありがたいとも言える。
- 保護者・職員アンケートで、「あまりそう思わない」「そう思わない」の数値が高いところが気になる。特に「教師の専門性や指導力」について。「保護者の教師への期待感と実感とのずれ」ではないか。決して教師の専門性や指導力に疑問があるわけではなく、保護者の思い描いているイメージと教師のイメージとの違いが、時としてトラブルの原因になるのではないか。その差異を埋めるためにも、教師が保護者の思いを知り、それに寄り添う姿勢を見せること。同時に教師自身の思いを保護者に伝えることが大切ではないか。
- アンケート結果から、個々の教職員の専門性や意欲の差を感じる。意欲のある職員の業務が過重にならないよう、成果を出している職員が不公平感を感じないよう、適切な評価や業務量に配慮

が必要である。

6 次年度への課題・改善方策

- 一部の保護者からの厳しい意見もあるが、学校への期待が大きいとも受け取れる。これからは、より丁寧な説明が必要になると感じている。
- 保護者アンケートの「わからない」という回答について、今後学校として保護者の方へどのように伝えていくのか検討する必要がある。「わからない」を1%でも「そう思う」にしていくために。
- 保護者の厳しい意見にしっかりと向き合う教師をひとりでも多く育成してほしい。「保護者の不安＝生徒のSOS」でもあり、高等部移転についても、「環境が変わることの不安」という記述もあり、その不安を少しでも取り除けるよう寄り添ってほしい。
- B評価については、次年度A評価になるよう期待している。本校と分教室の、それぞれのA評価を組み合わせることで、より良い学校運営ができていくのではないかと。